



LOOSE LEAF

わたしとまちと原子力

contents
わたしとまちと原子力
新幹線とわたし
白木をたずねて
ねえ、知つとつた?
茶でもしづきながら
SHGとまち・地域

2

つるがのドーナツの穴

其の式

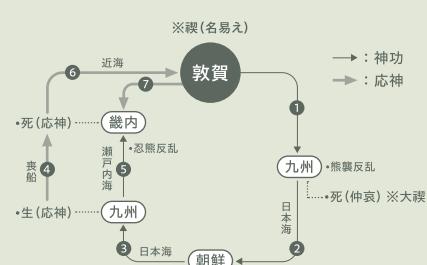
福嶋輝彦 | 株式会社ピー・ティー・ピー



賀・氣比神宮は、北陸道総鎮守、越前国一之宮として鎮座し、古代律令時代から、高い神階を有し、地方神として最高の地位をしめていた。それは、敦賀が「東北地方蝦夷制圧のための前線」「日本海を隔てての対大陸の備え」「畿内と北陸道（越）を結ぶ交通の要」「日本海航路の中心」「大陸との玄関口」として、ヒトとモノの往来するところ、境（サカエ）の地であり、それ故に、氣比神宮が、海・航海・食・交換・武・渡来の神を祀るところとしてあったのだろう。

氣比神宮の地の神で主祭神『伊奢沙別命（いざさわけのみこと）=ケヒ大神』と、氣比七祭神の中の三祭神『仲哀天皇（第14代天皇）』、『神功皇后』『応神天皇（第15代天皇）』（古代史のヒロインヒーロー）の間には、興味深い説話がある。「仲哀と神功は結婚し、筍飯宮（けひのみや）をつくる。熊襲（くまぞ）の叛を聞いた神功は、仲哀と長門で落ち合うことにし、①敦賀から出発する。②仲哀は突然死するが、懷妊した神功は、海を渡り新羅王を屈服させる（いわゆる三韓征伐）。③九州に凱旋した神功は応神を生む。④神功は喪船に応神を乗せ（これが、一旦応神は死んだことを意味する）、⑤反乱をおこした忍熊皇子（仲哀の先妻の子）を討ち、畿内へ。一方、⑥喪船に乗せられた応神は武内宿禰（たけうちすくな、氣比祭神の一神）とともに畿内から近海（琵琶湖）を通り、敦賀へ。そこでケヒ大神と接触し、お互いの名前を交換（名易え（ながえ））し、⑦畿内で神功から盃を受ける。』

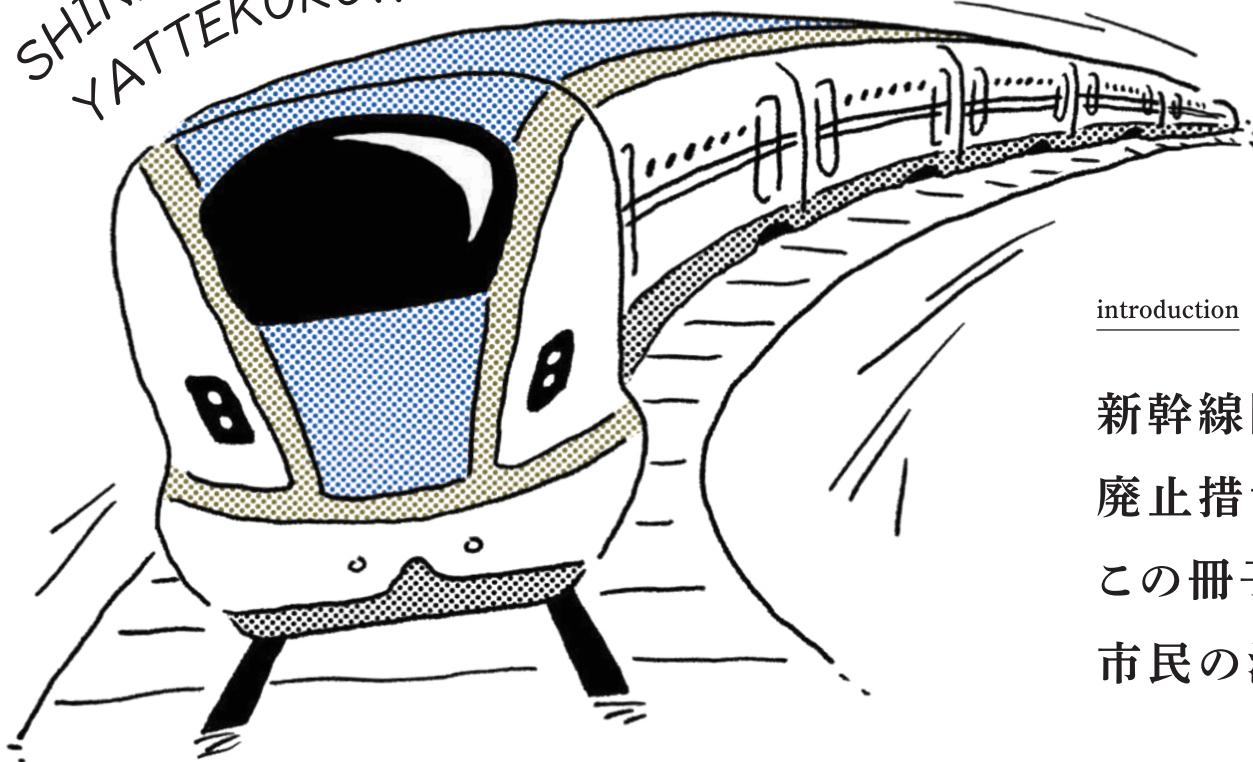
堀大介先生（佛教大学教授、前越前町学芸員、2022年濱田青陵賞受賞者、福井県鯖江市出身）に話を聞いた。「神功が敦賀から出発して、仲哀の死後、大禊をし、三韓征伐を行う。応神が、敦賀に来て、地の神であるケヒ大神と、名易えを行う（禊（みそぎ）の儀式）。これは死と再生を表象する。ケヒ神が鎮座する敦賀は、朝鮮とともに王を生み出すところ、新しい王の出現する場として位置づけられている。なぜ舞台が敦賀なのか。それは越（こし）国を母体



とした繼体天皇の影響で、繼体が応神の五世孫として位置づけられた関係上、敦賀が王者の出現の場として設定された可能性が高い。敦賀から出兵した神功の物語は、幼い応神とともに畿内入りを果たして勝者となり、応神のケヒ神との禊をもって敦賀で完結する。敦賀はその行動の出発の地とともに終結の地として位置づけられる。2024年春、越の国を通り、新幹線が敦賀まで開通する。敦賀・氣比神宮は、新たな人の、新たな「出発」と「終結」の地となっていくことだろう。



SHINKANSEN GA
YATTEKURU!!



introduction

新幹線開業と同じように
廃止措置も見据えて。
この冊子は、まちのことを学び始めた
市民の活動を記録するものです。

はじめに

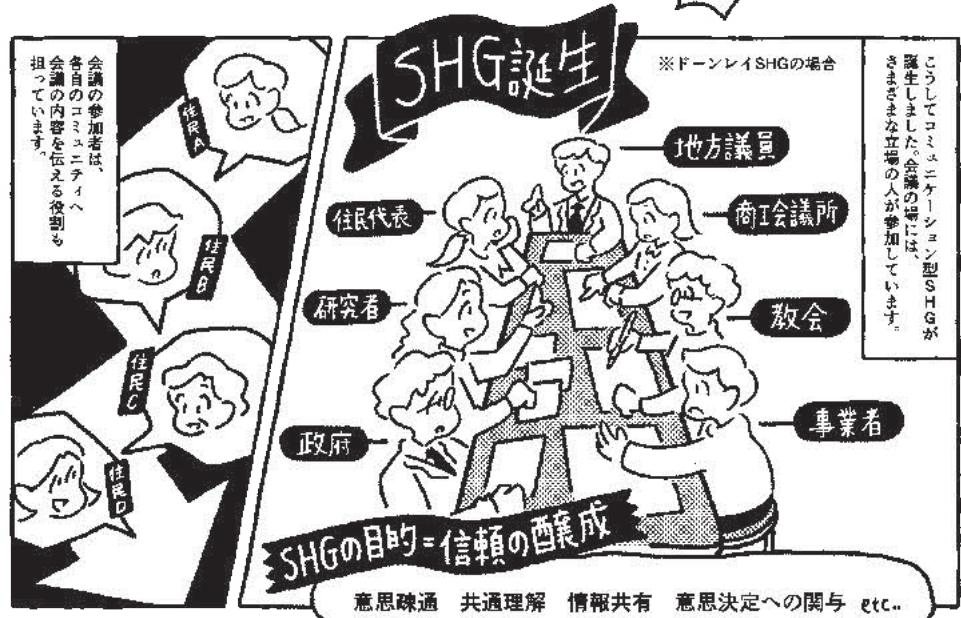
福井県敦賀市は1年後に北陸新幹線の終着駅ができる、まさに今変化の真っ最中にあるまちです。新しいお店が次々と生まれたり、週末ごとにイベントが開催されたり、駅前には立派な商業施設がオープンしたり、まちの中は来る新幹線に期待してうごめいています。一方で、これまでにも多くの転換点を経験してきた敦賀のまちでは、実はこうした局面に慣れているところがあります。日本海側で初の鉄道が敷かれたり、国際港に指定されたり、原子力発電所がやってきたり。まちはその日々でさまざまな変化を受け入れてきました。

1966年から始まつた敦賀と原子力発電所の関係も、少しづつ変化しながら、今も続いています。中でも、2015年に敦賀発電所1号機が運転

を停止し、2017年に「廃止措置」という後片付けの段階に入つたことは大きな節目。しかし現在の日本には、研究用の原子炉以外まだ1つとして廃止措置が完了した事例はなく、課題も山積みです。

一方、世界では廃止措置を完了させた事例は多数。その事例を紐解くと、ステークホルダーグループ（以下、SHG）という第三者組織の存在が鍵を握っていることを知りました。海外のSHGでは、住民から地域企業、原子力発電所事業者まで、まちに関わるさまざまな立場から代表者が参加します。日本ではあまり知られていないSHGの活動について、また廃止措置について、さまざまな変化を受け入れてきた敦賀のまちで、私たちはずまず「知ること」からはじめてみました。

SHGの先進地である英国では、どのようにしてSHGが誕生したのでしょうか？その背景からまちの中でのSHGの役割を紐解きました。



SHGとまち・地域 ～英國SHG誕生物語～



ねえ、知った?

クリアランスベンチ編



PRのためなら、公園とか駅前の商業施設とかに置いたほうが
たくさん見てもらえるんじゃないの?



私もそう思う。でも、まだ制度が一般的になっていないから慎重に、まずは少しづつでも知つ
てもらおうとしているんだと思う。誤解を招かないように順番にね。



ところで、再利用ってコストがかかるイメージあるけど、
クリアランスはその辺どうなの?



確かにそのイメージはあるよね。
でも、鋼鉄は国際的にリサイクルシステムがしっかり確立されているんだよ。
だから、クリアランス金属もそのシステムに組み込まれれば、つまりは普通の金属として再利
用されれば、余計なコストはかかるないはずだよ。



それは知らなかった。
クリアランス制度の活用が進めば、廃止措置の費用も抑えられそうだね。



そうだね。それに、資源は限られているからなるべくリサイクルした方がいいよね。
でも、もっと重要なのが、クリアランス制度の活用を進めていかないと、発電所管内から廃棄
物をいつまでも出せなくて廃止措置がどんどん遅れてしまう可能性があることなんだって。
ちなみに、私たちが支払う電気代には廃止措置のための費用も含まれているらしいよ。



え、お金もらっているなら尚更ちゃんと進めてもらわなきゃ困るね。廃止措置ってそんな状態
だとは知らなかった。クリアランス物も早く普通に使えるようになって欲しいね…。

(立ち話はまだまだ続く…)

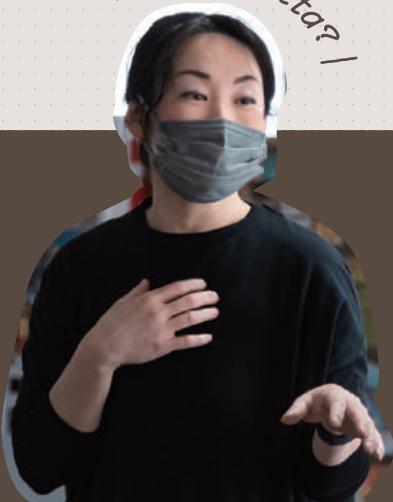
Voice

尾崎くん、話を聞いてみてどうでした?

そもそも、「クリアランス制度」があることも知りませんでしたし、まさか近所の
お茶屋さんから教えてもらうとは思いもよらず。クリアランス制度について理解はできたので、早く普通に使えると良いなと思いました。原発を新しく作る
のか、作らないかという議論もあると思いますが、壊すときのことも一緒に考
えなければいけないですね。空き家の問題と似ているなと思いました。

クリアランス制度とは?

「原子炉等規制法改正」によって新設された廃棄物処理に関する制度
です。原発の運転や廃止措置から発生した放射性廃棄物のうち、放射
能レベルが、人の健康に対する影響を無視できるレベルで、それを国に
より認可・確認されたものは、クリアランス物として一般の産業廃棄物
と同様に再利用又は処分ができます。基準となるレベルは、クリアラン
ス金属の場合、1年間に受ける放射線の量が0.01ミリシーベルト以下と
なる放射能濃度と定められています。これは、私たちが日常生活で自然
界などから受ける放射線量の1/100程度です。



クリアランスベンチ編

敦賀SHGメンバーの中道さんは、創刊号の企画内で、福井大学
客員教授の柳原敏先生からクリアランス制度について学びました。
この日は、敦賀商工会議所に設置されたクリアランスベンチを目
の前に、何やらクリアランス制度について、ご近所の尾崎さんと
お話しをしているようです。



中道 尚子



尾崎 寛之さん



尾崎くん、

最近ここに置かれたこのベンチ、何でできているか知ってる?



え…。なになに(クリアランスベンチに表示された説明書きを読んで)。

このベンチはクリアランス金属を使って作った……?



クリアランスとは、原子力発電所から出るゴミの中でも、健康への影響がない放射能レベル
のゴミは再利用してOKという制度のことなの。つまり、このベンチは発電所から出たゴミを
再利用して作られたものなんだよ!



へえ、知らなかった。

そんな制度があるんだ。



知らないのも無理なくて、日本ではまだまだ制度の活用が進んでいないの。

だから制度をPRするためにこのベンチが作られて、敦賀駅前にある

福井大学のキャンパスとか、げんでんのPRセンターにも

置いてあるんだよ。

クリアランスベンチって何?

原子力発電所の廃止措置に伴い発生する廃棄物の中から、クリアラン
ス制度に基づき、「クリアランス物」として認められた金属を再利用して
作られたベンチのことです。制度をPRすべく、1998年3月31日に運転を
停止した茨城県の東海発電所の廃止措置で発生したクリアランス物を
使って作られたこのベンチは、全国の原子力や電気関連事業者及び各
種教育機関などで展示されています。現在敦賀市内では、5ヶ所でクリ
アランスベンチを展示中。敦賀商工会館1階ロビーでは、2022年7月8
日から2台のクリアランスベンチが展示されています。



西福寺で好きな場所はあちこちあるけれど、四修廊下から眺めを必ず案内をする。そこからの庭園は最高。極楽浄土だもの。これ以上の場所があるかしらね。見る向きを変えると2本の大きなスタジイが見える。大きなコンクリート製の三門とスダジイの組み合わせはいい。コンクリート製で興ざめだという方もたまにいらっしゃるけれど、本当にとてもいい。ああ…、急にセンチメンタル。

がきている。だから修復は必須。どちらにしても修復工事の間は境内のほとんどが工事関連の資材置き場になり事務所が設置され、まさに現場と化す。工事車両が行きかい、多くの職人さんで工事を遂行して頂く。それがこれから15年先まで続く。いまの西福寺の姿ならも景観としては変わらぬのだからスタジイだけの話しではない。けれど、どの年代の方も椎の実拾いを楽しんだり、カメラをお持ちの方は季節ごとに様々な角度から撮つていかれたり、昔よく木登りしたんですけど小声で教えてくれる方もいたり、そんな皆に親しまれるスタジイを剪定するのはやはり忍びない。だから、今のお姿を見に来て欲しく、2月になって慌ててあれやこれやとイベントの企画が立ち上がった。3月12日はスタジイ祭りだった。あ、これは正式名称ではなく個人的なイメージ。アートディレクターが『西福寺と藝』とタイトルをつけてくれた。

ヒトは元来、急激な変化に適応するのが下手だという記事を読んだことがある。わかる、わかる。実家周辺でも高速道路ができて山が見えなくなつた時は妙なモヤモヤがあつた。でも日が経てば慣れた。建設始めは高速道路いるの？風景変わりすぎて変だわとブツブツ言つてみたが、大野市のご実家へ敦賀から往復されるのに、時間が短縮されてすごく良いとご近所さんが言うのを聞いて、物事にはいくつも側面があつたのでしたと小さく反省。もちろん森林を切り開くことや生態系の変化など、様々なことが繋がり広がつて小さくない問題となることがあるのも気になるところだけど。とはいえ、変化を起こしながら社会は動いていくもので、しかも敦賀市は港、鉄道、原発、高速道路ときて、次は新幹線がやってくる。変化のオンパレード。すごいね。

もう応援するしかないのよ。來るのだから。やれることは何でもやつて、違うなら変更したらいい。当然、西福寺も周遊先として何ができるか試案中。今年誕生した子どもたちが15歳になる頃には西福寺の修復は完了して、新幹線も普通のことになつていて…。そこに繋ぐまでに私にできることは…。やはりできることを精一杯するだけ。これしかないと…。やはりできることを精一杯するだけ。これしか



この度、大掛かりな御影堂の修復工事のために、このスタジイも随分と大胆な剪定をすることが決まった。これまでには剪定などする必要もなく、ゆつたり大きく枝葉を伸ばしたお姿だった。剪定後今のお姿に戻るまでに100年以上はかかるかな…。しかし、お堂は建てられてから200年以上がたち、修復しないでいるには限界している。



Writer
中村尊子
Takako Nakamura

福井県旧松岡町出身。国の重要文化財に指定される「西福寺」の寺務員として、西福寺の修復工事推進や寺の脈わいづくりに寄与する。気軽にきものを纏つてふらりと現れ、出先で抹茶を立ててもなすのが趣味。

まらと新幹線

1



Tsuruga S.H.G meets Naoko Watanabe, Ph.D

茶でもしぶきながら

第2回

低レベル放射性廃棄物と安全評価

創刊号では、日本の廃止措置の第一人者である柳原先生をお招きし、お抹茶片手に廃止措置全体の現状やクリアランス制度について学びました。続く今回は、低レベル放射性廃棄物の処分方法について学びます。北海道大学准教授の渡辺直子先生にはるばるお越しいただき、市民の素朴な疑問にもお答えいただきました。



北海道大学 博士(工学)
渡辺 直子 先生
Naoko Watanabe, Ph.D.

環境工学から廃止措置へ 渡辺先生のご経歴

もともとの専攻は環境工学でした。具体的には、地下水や土壤の汚染です。最初は民間企業にも勤めましたが、30歳で思い立ってアメリカの大学院に留学し、そこでは、土壤汚染のメカニズムについて研究をしていました。ポスドク*を経て日本に戻った後も、しばらくは環境工学の方面に携わっていましたが、福島第一原子力発電所の事故

*ポストドクターの略。博士課程修了の研究者のことを指す。

が目安とされています。たまに、高レベル放射性廃棄物の地層処分と混同されることがあるようですが、使用済みの燃料を再処理して作られる高レベル放射性廃棄物はウラン鉱石の放射能レベルに減衰するまでに10万年程度と言われており、低レベル放射性廃棄物とは比べ物にならないくらい違うんです。

があり、セシウムの土壤汚染について研究するために北大へ。今は、廃止措置の中でも廃棄物管理を専門にしています。廃棄物の処理、保管、処分には多額の費用がかかるので、廃止措置全体を見たときに、どんな方法がお得か?などと、合理的な方法を探っています。

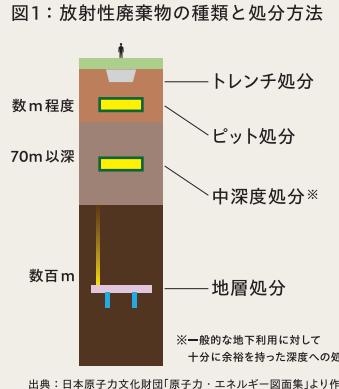
一 低レベル放射性廃棄物とは?

放射性廃棄物は大きく分けると高レベルと低レベルがありますが、廃止措置で出てくる廃棄物には高レベル放射性廃棄物はありません。低レベル放射性廃棄物は、その中でさらに放射能が高い方からL1、L2、L3に分けられています。レベルに応じて、処分施設の管理期間は、L3で50年程度、L1、L2で300年~400年以内

一定の期間は 地表に出てこないようにする

レベル分けした放射性廃棄物は、レベルの高いものほど深く地中に埋めて処分します。低レベル放射性廃棄物は埋めた後に管理をする前提で、それに対し高レベル放射性廃棄物は、生物圈から隔離して管理しなくても大丈夫な埋め方をしようという考えです。全然方針が違いますよね。高レベルは前述の通りとても管理できる年数ではありません。一方の低レベルの方は、処分施設が壊れたり漏れたりしないように管理し、管理期間の終了後、放射性物質が地下水に溶けるなどして地表に出てくる頃には人間にも生物にも害がないようにするという方針です。

——放電能は「減る」のがポイント
——ここからは、主にL3の処分方法の安全評価について詳しく聞いてみました。



渡辺 L3は、「トレンチ処分」という方法で地表付近に埋められます。廃止

水によってどのよう運ばれていくか、その水を人間がどのようにどのくらい使うか、その結果どれくらい被ばくするのかを評価します。

西島 50年間分を評価するんですか？

中村 イレギュラーなことが発生する可能性もありますよね？地震とか。

渡辺 処分場から地下水で運ばれるまでの時間は処分場によってさまざまですが、評価は千年くらいの期間について行われます。自然災害で廃棄物が出てきてしまつたり、堀り返されたり

宮本 その評価をもとに最終的に判断する場合についても評価されています。ただ、実際の場所が決まらないと具体性がありませんが…。

渡辺 発電所の建設時と同じように、事業者が作った計画書をもとに規制庁が判断するはずです。安全評価については、計算結果を鵜呑みにするのではなく、仮定や計算のプロセスが妥当かを説明してもらうことが大切です。

中道 安全を確保するのは事業者で、安心だと思うのは私たちなんですよ。そのためには私たちもまずはいろんな角度から知る必要がありますね。

渡辺 安全にもいろいろな見方があるので、サイエンスの最善を尽くしつつも、最終的にはみんなが納得できるか、例えば産業廃棄物の処分のリスクなど、かが大切だと思います。どのくらいのリスクならば受け入れられるのか、比べるとどうなのか、原子力のリス

—自分のまちで受け入れられる?

一 自分のまちで受け入れられる?

宮本 ちなみに、先生は自分の住んで
いるまちにL3の処分場ができると
なつたらどうですか?

中道 敦賀では、発電所に勤めること
で安定した生活を送っている人がいる
くらいだから、そんなまちが受け入れ
たら良いと思うんだけどな。

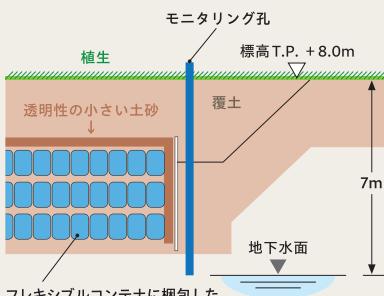
コストをかけるか、そんなことを冷静
に話し合える場が大切だと思います。

ケレベルは他と比べてどうあるべきな
のか、リスクを減らすためにどれだけ

渡辺 中道ぎんみたいな感覚は私にはないですが、新しい処分という事業が地元に何をもたらすかという視点があると良いかなと思います。それこそSHGみたいな組織の中からニーズを汲み出して、本当に市民が求めていて、かつ継続していけるようなプロジェクトとして考えたいですね。



図2：浅地中トレンチ処分実地試験施設断面図



渡辺　図2の右側に青色の線がありますか？

宮本　どうやつてモニタリングするん

年間、モニタリングなどを行つて施設を管理します。

物をフレコンバックや金属容器に詰めて埋め、水を通しにくい土砂で覆土し、地表には植物を植えます。この状態で、保管期間として定められた約50年間、モニタリングなどを行つて施設を管理します。

設置で発生するL3はエンクリート片や金属片がほとんどです。放射性廃棄物を

すよね。ここから地下水を探り、放射性物質が漏れてきていないかを測定して確認します。

時間が経ては減るもののはほとんどない
んですよ。

――どうやって安全評価をするの?――

中道 じゃあ、適切かどうかはどうやつて判断するんですか？

渡辺 それが安全評価という分野です。トレーンチ処分におけるリスクは、埋めたものが減衰する前に地表へ出てきて人間と接触してしまうことです。が、その原因として一番考えられるのが地下水に溶けて運ばれること。だから、埋め立て地の土壤や地下水を調べ

渡辺　処分時には、処分する物に応じ
べて扱いやすいとも言えるんですね。

時間が経てば減るものはほとんどない
んですよ。

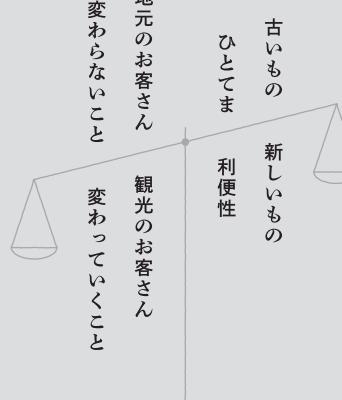
O △ □ のバランス

2022年（昨年）私の家業であるお茶屋で、「中道源藏茶舗の2号店OPEN」という新しいチャレンジが始まった。2024年北陸新幹線敦賀駅開業に向けて作られた、敦賀の新しい玄関口と言える商業施設ott'aの中、ちえなみきという本屋の中に日本茶カフェとして出店した。

本店では、創業から60年以上、地元のお客さんを中心にお茶の葉を売る商売を続けてきた。それを5年前（2018年）に喫茶を併設したお茶屋に改装。産地でも地場産業でもないお茶屋に、市内だけでなく市外県外から多くのお客様が来てくださった。他でもない私たちが改装前には予想できなかつた景色である。

その流れからちえなみきへの出店。ちえなみきを運営する丸善雄松堂・編集工学研究所さんからお誘い頂き、出来るかどうかよりやつてみたいと思う気持ちが先行してお店に至つた。決めた後によても不安でいっぱいになり、変な夢を見続けたこともあつた。何を大切にし、どこへ向か

2



いたいのか、それがお店として成立するのか。2つの事柄を対比させたり、1つの事柄だけで考えたり。どっちよりもなりたいか、どっちが「らしい」のか。決まるまでの時間は相当かかった（今も試行錯誤中である）。そして今回もたくさんの人たちに関わって頂き中道源藏茶舗ちえなみき店が完成した。

現在ちえなみき店オープンから半年。新幹線敦賀駅開業まであと1年。たくさん的人に行き交うお店を続けていくこと、地元の人たち（お店たち）と観光に来た人たちを繋げていくこと。昨年、ちえなみきの出店を見届けて他界した

父から、そんなバトンを受け取ったようにも思う。家族のようなスタッフとともに頑張ってきたい。

お茶の味には「渋み」「苦味」「旨み」があり、これらのバランスがとても大切である。同じように、これからもいろんなバランスを大切に、いろんな事柄を迷い続けようと思う。



新幹線とわたし



Writer
中道尚子
Naoko Nakamichi

神楽一丁目にある日本茶専門店の店長。20代は京都で過ごし、敦賀に引越すと家業の茶屋へ、先代から続く小売販売に加えカフェ事業を展開。2022年9月には新店舗がオープンした。商店街の女将さん会の会長も務める。

お店の前を通るたびにたくさんのこどもたちが笑顔で駄菓子を選んでいる。そんな姿をこれからも見続けたい。最後の決定打は「この場所は無くしてはいけない」という意思でした。駄菓子屋になり約2ヶ月が経つたいま、とてもやりがいを感じています。有難いことに多くのメディアに取り上げていただき、週末になると店内はたくさんの人たちや親子連れで賑わっています。先日は石川県から「ここに来たくてきました」と言われ鳥肌がたちました。市内外から目的地として選んでいただける場所であると喜ばしく思うとともに、ここから敦賀、福井の魅力をもっと伝えていける工夫をしていきたいと思いました。

は「夢HOUSE乃ん乃ん」が事業承継者を探しているだなんてまつたく知りませんでした。

経営の経験があつたわけでも、身内のお店だったわけでもありません。なのに、なぜ私が駄菓子屋を継ぐことになったのか。近年、経営者の高齢化や後継者不足など様々な理由で、人気があつても、流行っているお店でも閉店してしまった光景を目にしています。私が事業承継をした「夢HOUSE乃ん乃ん」もその1つ。はじめは商店街のみなさんの「どうにかして残したい」という思いに賛同し、どうすればいいかを一緒に考える1人でした。



は「夢HOUSE乃ん乃ん」が事業承継者を探しているだなんてまつたく知りませんでした。

事業承継と聞くと大変そうと思ってしまうかもしだれませんが、相互の思いがマッチングすれば辞めざるを得ない側も承継する側もこんな嬉しいことはないです。「夢HOUSE乃ん乃ん」を長年作ってきた今井さんご夫婦には感謝しかありません。これから敦賀唯一の駄菓子屋としてこどもたちはワクワクし、大人は童心に返る場所として、お店と駄菓子文化を残していきたいと思います。

こどもの頃、ワクワクしながらお金を握りしめて通った駄菓子屋には、思い入れがあります。だからといって、まさか自分が駄菓子屋になるなんて99%思っていませんでした。1年前この冊子のエッセイには「地域の未来を担う次世代のためにできることから始めたい」と書きましたが、そのできることというのが、私にとっては駄菓子屋だったのです。とても不思議なことに、前回この冊子を作るときに駄菓子屋の話を編集の西山さんと話していました。99%思ってはいなかつたけど、残りの1%は私の中に微かな願望があつたんだと思います。でも、冊子を作っていた当時



3



Writer

大石 愛子
Aiko Oishi

趣味で始めたアクセサリー作りをきっかけに、市内で多数のマルシェイベントを開催するプロデューサー。2023年1月9日、神楽一丁目にある駄菓子屋を事業承継し「駄菓子屋のんのん」として新たなスタートを切った。

事業承継で
駄菓子屋になつたいま

Take a dive into the local, to learn anew

継
續
は
力
や
さ

白木をたずねて

しらき

橋本昭三さん
(95)
はしもと
しょうぞう

2023年1月某日。前夜にどっさりと降り積もった雪の中、敦賀SHGのメンバーが向かったのは、敦賀半島の先端付近にある白木という集落。「高速増殖炉もんじゅ」の建つこの集落で暮らす橋本昭三さんは御年95歳。20歳ごろから「記すこと」を日課としており、これまでに和紙に墨で5万枚以上の記録を残してきた。令和2年には原子力の平和利用に貢献したとして「原子力歴史構築賞」を受賞している。並みの人には到底成し遂げられない、敬意を込めてアウトサイダー的とも言える行為の原動力とは一体何なのだろうか。

敦賀は、いつも誰かを見送り出迎えてきたまちだ。帰省シーズンになると、駅での出迎えや見送りのニュースをする。また、その時期のスーパーの広告には、帰省してきた家族をもてなすための食材や土産商品がたくさん載っている。この光景は今まで私が暮らしてきたまちではあまりなかったのだが、今年からついに私もその当事者となる。このまちでは、「ただいま」と「おかえり」、「いってきます」と「いってらっしゃい」が幾万幾億となく繰り返されてきたことだろう。

いてらっしゃい

今春、長男が進学のため敦賀を離れる。私自身も、大学進学のため生まれ育った土地を離れ、就職をし、結婚を機に敦賀へやって来た。それぞれのタイミングで何度か見送られてきた立場から、初めて見送る立場となる。

4



Writer
西島由佳里
Yukari Nishizima

三重県出身。結婚を機に敦賀へ移り、7代目となるご主人とともに、創業190年以上の老舗酒万寿店を切り盛りする。季節ごとの新商品開発や商店街イベント開催などなど、さまざまな方面で持ち前の発想力を発揮している。

そして来春、その敦賀に新幹線がやって来る。東京駅の電光掲示板に、北陸新幹線・敦賀行きと表示がされ、初めて「敦賀」を知る人も多いだろう。東京は身近なものになるだろうか。



阿呆もんが！言うてね、 よう叱りつけられました。

敦賀の市街地から白木へは車で25分ほど。入り組んだ場所にあるその村には、道中、隣町を経由しなければ辿り着けない。あれだけ積もっていた雪の様子もガラリと変わり、どこか遠いまちへと来たような感覚とともに白木の村へ到着した。

かつて民宿をしていた大きなお屋敷で橋本さんは出迎えてくれた。どうやら人が訪ねて来ることは慣れていらっしゃる様子で、見ず知らずのわたしたちを快く迎え入れてくれた。メンバーアー一同揃ったところで、まずは記録をはじめたきっかけをうかがう。

「まだ戦後間もない頃でした。ある日、

村の若い衆の寄合で、村の領地や権利についての記録、つまり証拠が無いせ

いで損害を受けた話を聞いたんです。

それでも未だに記録を残していない。

ならばわしが書いたろう！と思つたんです。そこから描き続けること70年以上。今でこそ表彰されるほどになつたが、当初は周りからまったく理解さ

市立博物館で見せていただいた記録。とてつもない量だが、これも一部に過ぎない



こういうのが みな歴史になるんやわね

そんな周囲の反応をよそに、橋本さんは筆を執り続けた。「破られようが殴られようが、村が損をした話が頭から離れなくて。記録が大切だという思いはきっと死ぬまで変わりません。次の目標は7万枚やね」と、今も現役で書き続けている。

取材の前日、私たちは敦賀市立博物館に協力いただき、橋本さんによる記録の実物を見せてもらっていた。膨大な記録の内容は、白木の風習や歴史、日々の出来事はもちろん、敦賀半島の他の集落も対象だ。その年の村役員や、小中学校の行事のことまで事細かに書かれていた。ページを捲るたびに字體やテーマは変化し、出発点は明確ではなかつた。連続的に書かれたものではなさそうだが、一体どのように記録されたものなのか不思議に思った。

この辺を研究していると 面白えんですわ

どんなに忙しくても、橋本さんの頭には記録のことが常にあった。個人的なことよりも村の出来事がもちろん優

れなかつた。家族からは『漁師や百姓が字を書くなんてクズや』と言われ、村の寄り合いでは『この村に字を書く阿呆がおるらしいぞ』と嫌味を言われ。夜中に父親がやってきて殴られたことがあります』。



書斎での作業風景も見せていただいた

日々の生活や、新聞やテレビからつた情報も含め、書いておこうと思ったことを、まずはボールペンでメモを取ります。それが2～3日溜まつたら筆で書くんです」。清書は美濃和紙に墨筆で。書き上げたものはカテゴリーに分けて保管される。つまり博物館で見た紙の束は、橋本さんに沿って日々記され、さらに清書・編纂されたもの。まさにこの冊子のタイトルと同じルーズリーフのようなものだった。橋本さん

の行う「記録」は、繰り返し清書や推敲が行われることや、その量を考えると、もはや人生をかけてつくられる一種のアート作品のようだった。

先。「この村には産小屋の風習があつてね」などと、白木の歴史や文化、漁業のこと、橋本さんが発見した縄文時代の石のことなどまで、この日も次々と話して聞かせてくれた。どの話も迷うことなく語る橋本さんの記憶力は書き記しの賜物だろうか。それでもその容量には驚かされた。一方で、橋本さんご自身の考え方や経験を幾度か尋ねても、結局は村の話へと辿り着いてしまう。それくらいずっと村のことを考え続けてきたということだろう。唯一聞くことができたのは、自身の感情や自作の短歌なども別のカテゴリーで記していることだった。「例えばね、白木は峠で昔は難儀したんや。『峠道登ればはるかに 若狭湾 渔どる舟のあちこちに 浮かんで見えて 春近』とかね。教えてくれる人はいなかつたんで我流です。まだまだ覚えているよ。『ちちははや・・・・・』。いくつか披露してくださった短歌からは白木

の美しい風景と共に、郷土を愛する橋本さんの想いを感じられた。

一 土地は絶対に売らさなんだ

白木にもんじゅ建設の白羽の矢が立ったころ、橋本さんは3回目の区長を務めていた。記録上では、動力炉・核燃料開発事業団(現原子力機構)の重役が橋本さんを訪ねてくるところからもんじゅと白木の関係が始まる。「初めは村のど真ん中が建設予定地だったんです。千年以上続いてきた村を捨てるわけにはいかないと猛烈反対しました」。何度も話し合い、時には東海村へ勉強にも行つた。最終的には、今場所への建設で折り合いがついたが、白木の住人は建設地以外の土地を誰も売り渡しはしなかつた。これをアドバイスしたのが橋本さん。もし土地が誰かの手に渡ついたら、もんじゅが停止した今、白木の村は変わらずここに

あつたのだろうか…。

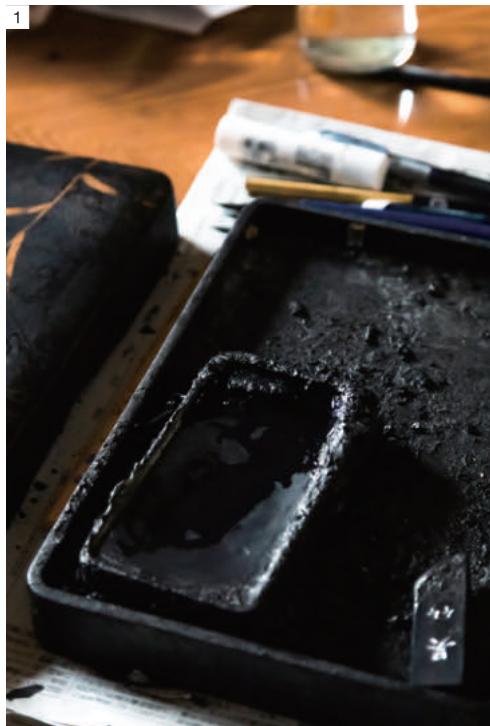
一方で、もんじゅの廃炉についても「もつたいないけど安全安心が第一ですから」と、どこか解答に遠慮している印象を受けた。「引退してからは、

村について口出ししたらあかんなど思つて黙つて見とるんです。村の者に聞かれたら答えるんですけどね」。予想外の答えが妙に刺さった。橋本さんの生き様から何を学び、どう生きるか、逆に問われたような気がした。玄関先に飾られた「継続は力なり」の文字と、村から見える「高速増殖炉もんじゅ」の佇む景色を目に焼き付け、私たちは帰路についた。



取材を終えて

この日は、敦賀SHGメンバーから中村・大石・西島・吉村の4名・カメラマン山崎・冊子編集と本記事の執筆を担当した西山の6名で訪問。3時間近くに渡って橋本さんのお話をうかがった



1: 研箱からも長年の軌跡を感じられた 2: 取材時点では累計6万3300枚。以前は半紙に書いていたがより強度のある美濃和紙に途中で変更した 3: 博物館に寄贈された使用済み筆の束。どれも先端だけが使われていた 4: 帰り際、海を隔てて村から臨むもんじゅの姿をしばらく眺めてしまった 5: 白木の春を彩る桜たちは、なんと橋本さんが年々植樹してきたもの。「継続は力なり」が表すのは記録のことだけではなかった



風 を は こ ぶ



Writer

宮本佳奈
Kana Miyamoto

典竹町にある酒屋「ケセラセラーミやもと」勤務。敦賀に生まれ育ち、母と妹夫婦と共に家業である酒店を切り盛りする。地産のみかんを使ったビルの開発など、お酒がらみの活動に積極的に取り組む。

新幹線と同い年の私は、勝手に新幹線に親近感を持つている。子供の頃、東京上野動物園に初来日のパンダを見に連れて行つてもらったのが初めて乗つた新幹線だつたと思う。両親の勘違いで、初お目見え前日に行つてしまい、実物のパンダは見られず、「カンカン」と「ランラン」の写真パネルしか見られずがつかりしたことを覚えている。

そんな旅行だったが、まさしく「ビュワーン・ビュワー」との歌のとおり、「すぐるよう走る」(『走れ超特急♪』)よりも在来線にはない、新幹線の何とも言えぬスマートさに感動した。走行中に席から立ちあがつても、抜群の安定感があるので通路でふらふらしないで済むし、特別感があつた車内販売のバニラアイスクリームはなぜかカチンコチンでスプーンが刺さらないほどだつたけれど、とても美味しくて子供の頃のお楽しみだつた。

そこで、敦賀が住みよい街になるためには、いつたい他にどんなことが必要なのかと思い、「住みたい街」とか、「住みやすい街」と検索ワードに入れて調べてみたところ、「交通やショッピングの便利さ」はもちろん、いくつかの条件が載つていた。そのうちのひとつに「嫌悪施設が近くになること」とあつた。そこでいうところの嫌悪施設とは処理場・墓地・反社の事務所の他、なんと原子力発電所も含まれていた。それはずっと私たちの身近に当たり前のように存在しているものだつたのに、まさか嫌悪施設としてどちらえられているとは……。住んでいるとわからないものだが、課題は多いように感じた。

もしかしたら、「住みたい街」と「住みやすい街」は似ているようでは違う部分があるのかもしれない。「住みたい街」とはその街の持つイメージや個人の理想に基づいたもの。一方、「住みやすい街」とは自分達が住んでいて、便利で楽しくおもしろいと実感できるもの。敦賀が「住みたい街」と言われるようになるのは少し難しいようだ。

しかし、「住みやすい街」ならば可能だ。それが敦賀といふ街の役割なのかもしれない。もちろん、観光も大切なだけれど、今敦賀に住む人が「便利で楽しくおもしろい」と感じられることが「住みやすい街」への第一歩。そして、そのことを敦賀以外の人たちにも知つてほしいし、そうする

そんな新幹線がついに敦賀にやつてくる。巨大な橋梁・駅舎がだんだんと出来上がりしていくのを目の当たりにしてきたけれども、いざ、あと1年足らずで敦賀駅のホームに滑り込んでくるのだと思うとわくわくしてしまう。

私は、新幹線が延伸して、敦賀に住みたいと思う人がもっと増えたらいなど考えている。先日、うれしいことに娘が東京からUターンしてきた。コロナの功罪か、リモートで仕事ができてしまつのでどこに住んでいても良いらしい。離れてみて改めて敦賀の良さに気付けたとも言つてい。時々はバスのところに顔を出さねばならない彼女は「交通の便もよくなる敦賀はこれからもっと注目されるだろうね」と言つてゐる。交通の利便性は、必ずや敦賀を住みよい街にしてくれるだろう。

ことで、たくさんの「住んでよかつた！」に繋がっていくのではないだろうか。

先に「新幹線がやつてくる」と述べたが、終点が敦賀というだけではない。始発もあるのだ。つまり、敦賀が「住みやすい街」だということをより多く発信できる時がすぐそこまで迫つている。新幹線が運ぶのはきっと人だけではなく、ちがう街の風なんかも一緒にやつて来るだろう。そして、私たちが伝えたい敦賀の風も他の街へ運んでくれるに違いない。

5





LOOSE LEAF

わたとまちと原子力

2023年3月 発行

敦賀SHG 大石愛子
中道尚子
中村尊子
西島由佳里
福嶋輝彦
宮本佳奈
吉村恵理子

発行 敦賀SHG
協力 日本原子力発電株式会社

取材協力 尾崎寛之 / 敦賀商工会議所 / 橋本昭三
(敬称略) 渡辺直子 / 柳原敏 / ちえなみき

編集・テキスト 西山綾加
デザイン Amateur&Co.
表紙・イラスト 滝田知佳
漫画(P.1-4) キムラユキ

HP <https://www.tsuruga-shg.org>
Mail tsuruga.shg@gmail.com



あとがき

北陸新幹線を作る計画は、50年ほど前からあったそうだ。

私が生きてきた年数の倍近くかけて敦賀にやってくるそれは、開通を目前にして、ようやく目に見えるカタチでまちに変化をもたらしはじめている。

一朝一夕には出来上がらない新幹線のように、あるいは1枚1枚の紙が5里の道になるように、日々の小さな積み重ねが「いま」を作り、まちをつくってきた。そう考えると、一つひとつ「知ること」から始めた敦賀SHGの活動も、いつか「新幹線がやってくる!」みたいな大きなコトを成し遂げるかもしれない。

まずは、こうして2号目のLOOSE LEAFを積み上げた。さらにさらにと積み上げた先に何が起こるのか。現時点では見えなくても、きっとそのときになればわかるはずだ。

編集 西山 綾加